

性への価値観を高める指導の工夫

～第1学年保健体育「生殖にかかわる機能の成熟」の学習を通して～

那覇市立首里中学校養護教諭 谷川 選子

テーマ設定の理由

現代社会はあらゆる情報があふれ、物質的には豊かになった。しかし、その一方で、急激な社会状況の変化や価値観の多様化により、子ども達を取り巻く環境も大きく変化してきた。

平成9年9月の保健体育審議会答申では、いじめや不登校等の心の問題をはじめとして、生活習慣病の兆候、感染症の新たな課題、薬物乱用や性の逸脱行動などが、今、早急に取り組むべき健康に関する現代的課題として取り上げられている。中でも性の逸脱行動については、出会い系サイトを利用した「児童買春」が、連日マスコミを騒がせるほど問題が顕在化しており、「性感染症の増加」や「十代の出産と人工妊娠中絶」等、学校における性教育の重要性が指摘されている。

このような状況をふまえて、学校でも「世界エイズデー」の取り組み等を中心に、性の学習を行ってきた。しかし、一連の学習により、生徒達が性の問題を自分のものとして真剣に捉え、考えるようになったかは疑問である。なぜなら、性の学習については、講話やビデオ視聴など一過性の指導に止まっているのが現状であり、生徒の性に関するアンケート調査の結果からは「自分の性についての知識に自信がない」「児童買春がなぜ犯罪なのかわからない」「本人が好きならかまわない」という性の実態が見られた。

さらに、思春期の変化する心と体、それに起因する様々な性の問題や悩みを「恥ずかしい」「誰に相談していいのか分からない」としている現状もある。また、生徒の性の情報源のほとんどが、友人やマスメディアなどであることから、一方的で偏った性情報が、安易な性交渉や性犯罪に巻き込まれる等の誤った性行動につながっているという現実もある。

このような状況から、生徒の心身の発達段階に応じた学習の中で、生徒が自分の体や性についてしっかり向き合い、科学的に知識として理解し、性の問題に対する適切な意志決定や行動選択ができる「性教育」の実践が、必要であると強く感じている。

そこで、第1学年保健体育「生殖にかかわる機能の成熟」の学習を通して、自分の心や体に起こっている変化がどういうものか、またどういう意味をもっているのか、生徒の実態から見えてくる「なぜ」を科学的に「なるほど」と理解させ、性への価値観を高める工夫をしたい。

さらに、こうした心や体の変化に対応するためには、正しい判断に基づいた意志決定や行動選択が必要であることを理解させるために、学習過程の中で、生徒が直面する身近な性の問題について互いに学び合い、主体的に考えることができる学習の方法を取り入れることで、性を自分の問題として捉えることができるのではないかと考える。

自分の体や性についての理解が深まっていくことで、自他の性への価値観が高まり、性を生に結びつけ生きる力としての学びを体得していけるのではないかと考え、本テーマを設定した。

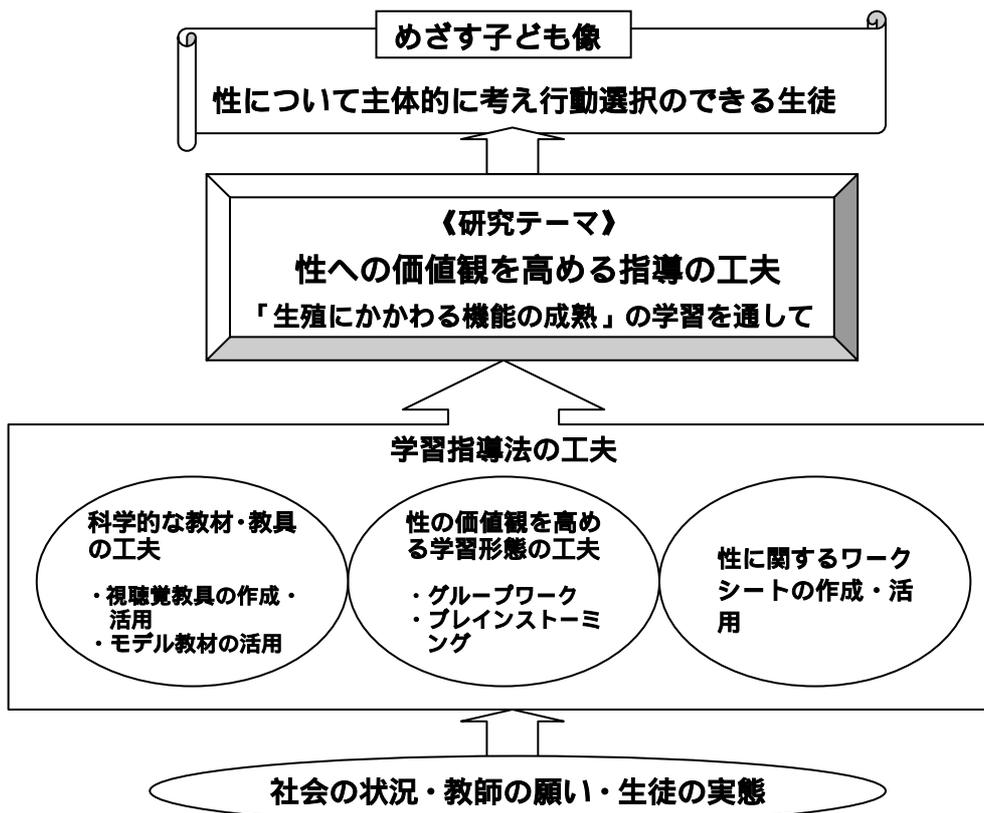
研究目標

第1学年「生殖にかかわる機能の成熟」の学習を通して、生徒が自分の体や性について正しく理解し、自他の性に対する価値観を高める指導について研究する。

研究の方針

- 1 性に関するアンケート調査から，生徒の実態を把握し，生徒が興味・関心をもって取り組めるような資料の収集と教材の工夫を行う。
- 2 思春期の体の変化や生命誕生のしくみを科学的に理解できるような教具を作成・活用する。
- 3 生徒がお互いに学び，考えを深め，性への価値観を高める学習指導法の工夫を行う。
- 4 授業後の生徒の意識の変化をまとめ，他教科との関連指導に生かすための資料とする。

研究構想図



研究内容と方法

1 性教育における性の価値観

(1) 性教育の重要性

近年，子ども達を取り巻く家庭環境や社会環境の急激な変化により，性に対する意識や価値観も多様化し，子ども達の心身の発達は，性的成熟と社会的成熟にギャップが生じアンバランスになっている。また，子ども達の中に様々な性の逸脱行動が生じ，その結果として，望まない妊娠や人工妊娠中絶，性感染症の増加と低年齢化など性に関する健康問題が深刻化している。この増加の原因の一つとして，子ども達が，性に対して無知であることや性に対して認識が不足していることが指摘されている。さらに，「やせ」願望による薬物乱用，性的ないじめや不登校などもあることから，様々な子ども達の健康問題や心の問題において性の問題が広く関わってきている。このような状況から，起こしてしまった現実の問題への「後追い対処」ではなく，子ども達が，様々な性の問題にどう関わって生きていくのかについて，自分自身を大切にできる価値観と正しい知識に基づいて，主体的

に考え、判断し、適切に行動できる能力を育む「生きる力」としての性教育の実践が求められている。

性教育の目標は、生命尊重の精神を育て、自分を大切にしようとする態度や思いやりの心をもって互いに相手の人格を尊重し、家庭や社会の一員として適切な意志決定や行動選択の能力を育てることである。性教育は、性のもつ身体的側面、心理的側面、社会的側面に視点をあて、人間としての在り方、生き方に直接に係る教育活動である。それ故、常に児童生徒の実態を把握し、社会の変化などにも十分対応しつつ、特定の教科だけではなく学校教育活動全体を通して、系統的、組織的、計画的に行われることが重要である。

(2) 性の価値観を高めるとは

今日、氾濫する性情報は、様々なかたちで子ども達の性の見方、考え方、性行動に影響を及ぼしている。性の見方、考え方は、性への価値観を形成し、生涯にわたっての「性」と「生」を左右すると言っても過言ではないだけに、性をどのように学ぶかは重要な課題の一つである。性は「人間が心豊かに幸せに生きる」上で最も基本的なものである。子ども達が、それぞれの発達段階に応じた学習の中で、自分の体や性としてしっかり向き合い、自分の体や心に起こっている変化がどういうものなのか、どういう意味をもっているのか科学的に学び、納得し、受け入れることができはじめて、性を自分自身の問題として捉えることができるようになるのではないかと考える。自分の性への認識が深まることで、異性への理解も深まり、性の主体者となっていける。つまり自分の性を大切なもの、価値あるものと捉え、自分の人生を大切に生きていこうとすることが、性への価値観を高めることであり、その高まりが、現在及び将来の生活において直面する性の諸問題に対して、適切な意思決定や行動選択の基礎となり、責任ある性行動へつなげていけるものと考えられる。

2 小単元「生殖にかかわる機能の成熟」における育てたい力

本単元は、性の逸脱行動など、深刻化する現代的課題へ対応するための内容として、平成10年の学習指導要領の改訂において、中学校の保健体育「保健分野」の中に新たに位置づけされたものである。健康・安全の問題に直面した場合に、科学的な思考と正しい判断の下に意思決定や行動選択を行い、適切に実践できるような資質や能力の基礎を育成することを目標としている。

小単元を通して育てたい力としては次のようなことが上げられる。

- (1) 二次性徴についての理解（性差、個人差）
- (2) 体の発育・発達に伴う心の変化の理解
- (3) 生命誕生に関する科学的な知識
- (4) 自他の生命を大切にする力
- (5) 適切な行動判断ができる力
- (6) 豊かな人間関係を結ぶコミュニケーション能力
- (7) 性情報に対する適切な判断力や選択能力

等である。このようなことから本小単元を学びの核として、関連教科や発展指導、家庭、地域社会、関係機関と連携を図りながら繰り返し学習することで、ネットワークを広げ、性をライフサイクルとしての自分の生き方や生活につなげていけるのではないかと考え、研究を推進してきた。

図示すると以下のようなになる。

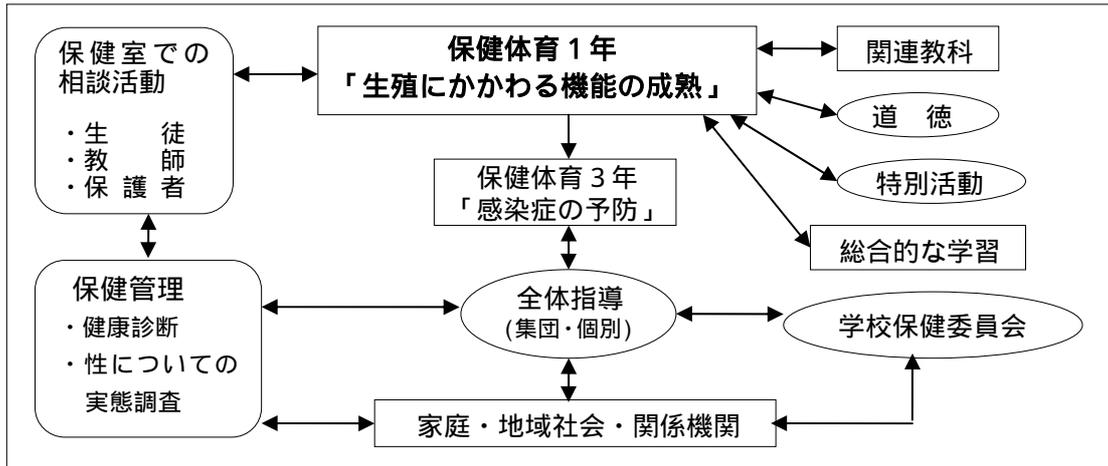


図1 性の学習のネットワーク

3 生徒の実態

本校生徒に性についてのアンケート調査を実施した結果は、以下の通りである。

調査年月日・・・平成15年10月30日

対象・・・1年(66人)2年(79人)3年(70人)

(1) 性知識

図2は、「体にかかわる言葉」について知っているかを質問したものである。小学校から学んできたにもかかわらず「どれも知らない」と回答した生徒もいる。また「月経」(男子32%・女子75%)「ワギナ」(男子26%・女子18%)「精通」(男子26%・女子21%)等、自分や異性の体の変化についての言葉は「知っている」とする割合が低い。

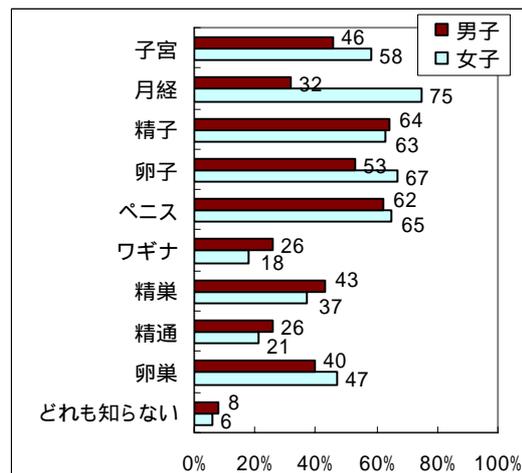


図2 性の知識(体にかかわる言葉)

図3は「性行動にかかわる言葉」について知っているかを質問したものである。ほとんどの言葉について「知っている」と答えており、特にマスメディア等でよく取り上げられている「セクハラ」「ストーカー」「エイズ」については「知っている」の割合が高い。「コンドーム」等の避妊具については、中学1年から半数以上が「知っている」と答えている。

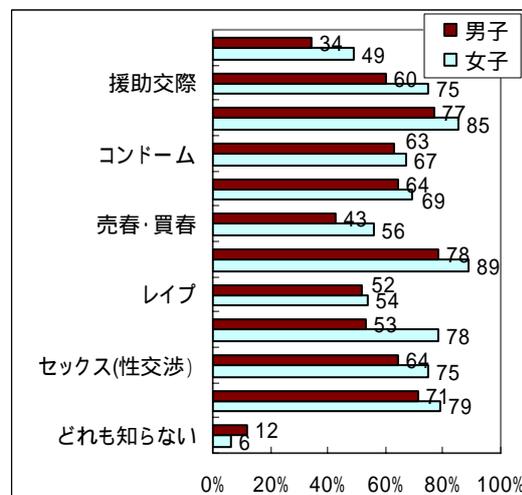


図3 性の知識(性行動にかかわる言葉)

しかし、「援助交際」は知っているが「売春・買春」は知らないと答えている生徒もあり、援助交際が売春行為である等、確かな理解にはつながっていない。

図4は、性についての情報源について質問したものである。「友達」(男子70%・女子64%)が最も多く、次いで「学校の授業・教科書」「テレビ」「週刊誌・本」となっており、

友達やマスメディアの影響が大きいことがわかる。このようなことから、偏った性の知識が誤った性行動につながらないように、正確な知識を繰り返し指導していく必要がある。

(2) 性意識

「性」という言葉のイメージについては、「何も感じない」とする生徒が多い。しかし中には「恥ずかしいこと」「いやらしいこと」「口に出してはいけないこと」と捉えている生徒もあり、マスメディアによって作り出された性の情報が、そのまま性のイメージとして意識されている様子も見られる。また、中学生が、1対1の交際をすることについては、「好きなら当然のこと」「異性をよく理解できるから」として受け入れている生徒が多い。「悪い」「早すぎる」は、215人中8人(男子7%・女子6%)であった。

図5「交際の仕方」については、「一緒に帰る程度」(男子45%・女子47%)が最も多いが、「キスまではいい」「制限はない」等、異性との接触を求める回答(男子27%・女子21%)も見られた。このようなことから性衝動や性行動に対する認識を深めさせ、正しい意思決定と行動選択につながる性の指導が必要だと考える。

4 性の価値観を高める指導の工夫

(1) 科学的な教材・教具の作成・活用

性機能の成熟という、目に見えない体のしくみや変化を具体的にイメージさせ、生徒の日常生活や生き方に結びつけられるような教材を下記のように工夫する。

視聴覚教材の作成・活用

第1時「思春期の体の変化」においては、男性生殖器、女性生殖器の拡大断面図や月経のしくみの掲示資料を作成し、射精のしくみ、月経のしくみを具体的にイメージさせ、理解できるようにする。また、子宮の大きさなどは、中学生の実物大を示し、成人のものと比較させることで、成長の途中である自分の体への認識が深まると考える。

第2時「受精と妊娠」においては、導入で児心音を聞かせ、これから学ぶことが命につながっていくということの意識づけを行う。また、受精 着床 妊娠という生命誕生のしくみを理解させるためVTRを活用する。精子の数や動き、受精の瞬間などをリアルにイメージさせることにより、自他の生命が、3億の中から選ばれたかけがえのない命であること、自分の体に起こっている月経や射精等の変化が、生命を生み出すための準備であることへの理解が深まり、適切な行動選択へとつなげていけるものと考えられる。

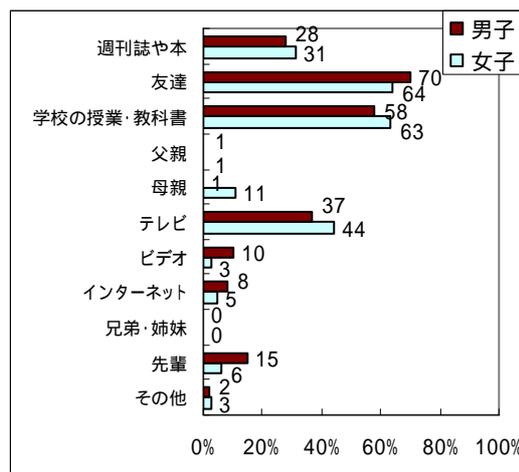


図4 「言葉や意味を何で知りましたか」

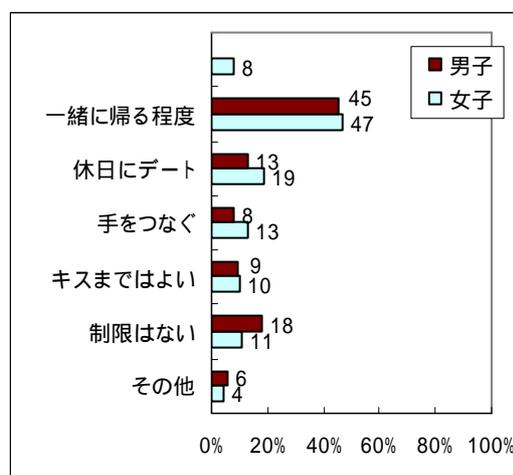


図5 「どんな交際をしたいと思いますか」

モデル教具の活用

第2時「受精と妊娠」の中で、受精 着床 妊娠 生命誕生の一連の流れの中で受精卵が実際に成長していくことを実感させるために胎児モデルを活用する。絵や写真よりも実物モデルに触れ、大きさ、重さを体験することで子宮の中で命が育つということへの理解を深め、発展的な学習を行う際の基礎知識として実感できるものとする。

(2) 学習形態の工夫

単に知識の伝達や暗記中心の方法だけでなく、自ら課題意識をもって、的確な思考判断や意思決定をしていくといった「実践力」を身につける工夫として、生徒が主体的に学ぶ学習方法の工夫を行った。

ブレインストーミング

アイデアや意見をできるだけ幅広く出すための活動として、第1時「思春期の体の変化」と第3時「異性とのかかわり」で取り入れる。みんなで自由に意見を出し合うことにより知識の量を増やし、見方、考え方を広げ、お互いの価値観を認め合うことができる。

グループワーク

ディスカッションなど、仲間と意見交換をしていく「知恵の貸し借り」の中で、より自分の考えを深められるということから、第1時から第4時まですべてにグループワークを取り入れる。また、性についての問題意識には男女差がみられることや異性がどんな意識をもっているのか理解し合えるという意図から、男女別のグループワークとする。

(3) 性についてのアンケート結果の活用

性についての学習は、性知識、性意識等の生徒の実態や発達段階を把握して進める必要があるという観点から、生徒への性についてのアンケートを作成し、その結果から見えてくる生徒の実態を授業の展開の中で生かせるよう工夫する。アンケートの結果を活用することにより、性の問題を自分たちの問題として捉え、授業に対する興味・関心も高まるのではないかと考える。

(4) ワークシートの作成・活用

授業の評価として、図6に示すようなワークシートを毎時間作成し活用する。授業のねらいに沿って課題を設定し、自分の考えを記述させたり、自己評価させることで授業への個々の理解とニーズ、意識の変容を確認することができ、次時の授業や生徒個々への支援のあり方につなげる。また、授業を通して見えてくる生徒の実態を、関連教科やその他の学習や指導に生かす手立てとして活用する。

5 評価

中学校保健体育科の保健分野における評価の観点は、健康・安全に関する「関心・意欲・態度」「思考・判断」「知識・理解」である。その観点について、本小単元における評価の規準を作成し、表1に示した。

生命誕生のしくみを知ろう
姓 名

1. 新しい命を創るため、私たちの体にどんな変化が起こっているのだろうか

男子 女子

2. これまでの学習を通して、わかったこと、考えたこと、知りたいことをまとめてみよう

自己評価
(Aよくわかった Bわかった Cあまりわからなかった Dわからない)

1. 受精・着床・生命誕生のしくみについて関心を持って学習できたか (A・B・C・D)
2. 受精・着床を自分の体のこととして考えることができたか (A・B・C・D)
3. 受精・着床・生命誕生のしくみについて十分理解できたか (A・B・C・D)

図6 ワークシート

表1 小単元「生殖にかかわる機能の成熟」

関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
1 思春期に起こる心身の変化や生殖機能の成熟について関心をもって学習しようとしている。 2 受精・妊娠のしくみについて関心をもって学習しようとしている。 3 ブレインストーミングやグループでの話し合いに積極的に参加し、仲間と協力している。	1 思春期に起こる心身の変化や生殖機能の成熟を自分のこととして考え、問題点を見つけようとしている。 2 思春期に起こる心身の変化や生殖機能の成熟について学習したことを日常生活にあてはめて考えている。	1 思春期に起こる心身の変化には性差、個人差があることについて理解している。 2 思春期に起こる心身の変化や思春期が生殖機能の成熟や自己の認識が深まる重要な時期であることを理解している。

授業実践

1 単元名 心身の発達と心の健康

2 小単元名 生殖にかかわる機能の成熟

3 小単元目標

- (1) 思春期には性機能が発達し男子では射精，女子では月経が見られ，妊娠が可能になることを理解することができる。
- (2) 異性を尊重し，性情報への対処等，性に関する適切な態度や行動の選択ができるようになる。

4 小単元について

(1) 教材観

本単元は，思春期には性機能が成熟し，それにとまなう変化に対応した適切な行動が必要になることを理解させるのをねらいとし，科学的な思考と正しい判断の下に意思決定や行動選択を行い，適切に実践できるような資質や能力の基礎を培う単元として位置づけられている。中学生は，体の変化が著しく個人差も大きいことから，その変化にとまどい，不安や悩みをもつようになる。また，自らを性的な存在として意識し，自覚しはじめる時でもあり，性の価値観形成にとって重要な時期であるといわれている。

そこで，本単元を通して，自分の体や異性の体の変化を科学的に理解させることによって，自己の性への肯定観を高めたい，さらに氾濫する性情報や性行動の誘惑に対しても正しい判断に基づいた意思決定や行動の選択が必要であることを理解させ，正しい性への価値観を育てていきたいと考える。

(2) 生徒観

1年生(66人)に性に関するアンケート調査からは，「初潮」(85%)「発毛」(男子43%・女子97%)「変声」(37%)「精通」(6.3%)等が見られ，男女差や個人差が大きいことがわかった。しかし，体が変化することに「不安・心配」「いやだ」(男子22%・女子21%)と感じている生徒やその変化や言葉の意味を80%の生徒が「知らない」と回答しており，小学校から学んでいるにもかかわらず確かな知識は身につけていない実態もある。また1対1の交際については「良い」「どちらでもよい」(88%)と肯定的に受け止めている生徒が多く，「どんな交際をしたいと思いますか」の問いに対しては，「手をつなぐ」「キスまで」「制限はない」(男子31%・女子21%)と異性との接触を求める回答も見られることから，異性への興味・関心が高まってきている様子も見られる。このようなことから本単元を通して，思春期に性機能の成熟を迎え妊娠の可能性をもったことを理解し，その成熟を異性との関わりの中できちんと受け止め，責任ある行動の選択ができるようにしたいと考える。

(3) 指導観

本単元の「性機能の成熟とそれにもなう変化に対応した適切な行動が必要になることを理解する」ねらいへの手立てを 科学的に理解させる。 生徒がお互いに学びあうことで理解を深める。 学習の中から見えてくる生徒の意識の変容や要望を次の学習へつなげる。 という三つの視点から考えた。まず、掲示資料、VTR などの視聴覚教材やモデル教具の活用を通して、自分や異性の体の変化の意味を科学的に理解できるようにする。次に知識伝達だけに止まらず、生徒が互いに学び合い、考えを深め合うための工夫として、グループ学習形態をとり、意見の交換が行われやすい環境を作る。その中で身近な性の問題についてブレインストーミングや話し合いをすることにより、自分の問題として捉え、正しい行動選択へとつなげていきたい。さらに、生徒の学びの過程でワークシートを作成・活用することで、生徒が自分の問題として考え、理解し、意識の変化を確認していくことができる。また、それを踏まえ、より生徒の興味・関心に基づいた授業の展開を図りたい。

5 指導計画

	学習項目	ねらい	学習内容	資料
1時	性機能	思春期の体の変化について知り、排卵と月経、射精のしくみについて理解する。	ブレインストーミングで思春期の体の変化について話し合い、理解する。 排卵と月経のしくみについて理解する。 射精のしくみについて理解する。 発達には個人差があることを理解する。	フラッシュカード 掲示資料 ・女性生殖器図 ・男性生殖器図 ・月経のしくみ図 ワークシート
2時 (本時)	の成熟	受精と妊娠、生命誕生のしくみについて理解し、責任ある行動が必要になることを知る。	受精・妊娠のしくみについて理解する。 胎児モデルを使い、胎児の成長に触れることで生命誕生のしくみを知る。 自分たちの体が妊娠の可能性をもったことを理解する。 自分の体が大人に成長していくことから責任ある行動が必要であることを考える。	掲示資料 ・排卵・受精図 VTR 胎児モデル ワークシート
3時	性とどう向き合うか	思春期は異性への関心が高まることを理解し、異性との望ましい関わり方について考える。	思春期には性衝動が生じたり、異性への関心が高まることを理解する。 ブレインストーミングに積極的に参加し、異性との関わり方について考える。	脳のしくみ図 ブレインストーミング ワークシート
4時		性情報への対処について考え、正しい情報を選択し責任ある行動がとれるようにする。	身の周りにおける性情報の影響について知る。 性被害の事例についてグループで話し合う。 性情報とどう関わればよいか考える。	資料 ワークシート

6 本時の学習

(1) 目標

受精と妊娠について理解し、生命誕生のしくみを知る。

自分たちの体が妊娠する可能性をもったことを理解し、正しい知識に基づいた責任ある行動が必要であることを知る。

(2) 本時における具体的な手立て

受精、妊娠、生命誕生のしくみを科学的に具体的に理解させるために、掲示資料や VTR などの視聴覚教材を活用し、さらに胎児モデルなどを通して、胎児の成長に触れながら、前時に学習した月経や射精のしくみなどと合わせて、自分の体の変化が生命創造へとつながっていることを理解させる。

グループでの話し合いや発表等を通して、正しい知識に基づいた責任ある行動が必要であることを理解させる。

(3) 本時の展開

場	学習活動	主な発問()と生徒の反応(・)	教師の支援
導入 5分	1 前時の学習を振り返る。	前の時間で学習したことを思い出してみよう。 ・月経 ・射精 ・体の変化 これは何の音かな ・馬の音・機械の音・赤ちゃんの音 私たちの体の変化が命と、どうつながっているか考えてみよう。	* 児心音を聞かせ、命の始まりであることに気づかせる。
展 開 35分	2 めあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin: 10px 0;">生命誕生</div>		* めあてを板書する。 * 精子と卵子の写真を黒板に貼り、精子は精巣で卵子は卵巣で作られることを確認する。
	3 受精・妊娠のしくみを理解する。	命の始まりは何だと思う。 ・精子 ・卵子 精子と卵子がどうなるの。 ・合体する ・くっつく ・受精 受精はどのようにして行われるの。 ・合体 ・交尾 ・セックス これまでのしくみを VTR で確かめてみよう。	* 精子と卵子が結びつき、受精することを排卵・受精図を使って簡単に説明する。 * 精子は体外では生きられないことから、体内受精が必要なことに気づかせる。
	4 受精・妊娠のしくみを VTR で確認し感想を発表する。	VTR を見て、どうでしたか ・たくさんの精子の中から一つしか受精できないことがわかった。 受精・着床した受精卵はどのように育っていくのかな。 ・お母さんのお腹の中で大きくなる。 受精卵の大きさはどのくらいだと思う。 ・1cm ・1mm ・目に見えない 小さな受精卵が、成長するのを見てみよう。	* VTR を見せ、受精・妊娠のしくみを理解させる。(NHK 驚異の小宇宙人体) * 2, 3 人から感想を言わせ、3 億の中から選ばれた大切な命であることを認識させる。
	5 胎児の成長にふれ生命誕生のしくみを理解する。		* 受精卵の大きさを画用紙に針で穴をあけて示す。
	6 生命を生み出すため自分の体にどんな変化が起こるのかグループで話し合う。	このような命を創るため、今あなたたちの体の中で、どんな変化がおこってきているのかな、学習したことを思い出してグループで話し合ってみよう。 ・月経が始まる ・射精がある	* 3 ヶ月, 6 ヶ月, 10 ヶ月の胎児モデルを提示し、子宮の中で命が育つことを理解させる。 * 各グループへまとめの紙を配布する。 * 意見を出しやすいように男女別のグループに編成する。 * 机間指導する。
	7 各グループで話し合ったことを発表する。	各グループで話し合ったことを発表しよう。	* 生徒の発表をまとめ、自分たちの体が生命創造の可能性をもっていることを説明する。
	8 事前のアンケート結果から自分たちの性意識に気づく	前にみなさんに書いてもらったアンケート結果から気になることがあるのでみんなも考えてみよう。	* 性に関するアンケートの結果をグラフで提示し、自分たちの性意識について考えさせる。
	まとめ 10分	9 まとめ ・これまでの学習からわかったこと考えたこと、知りたいことをワークシートにまとめる。	これまでの学習や先生の話聞いてあなたがわかったこと、考えたこと、もっと知りたいことをワークシートにまとめてみよう。

(4) 評価

受精・妊娠・生命誕生について関心をもって学習しようとしている。(関心・意欲・態度)

受精・妊娠・生命誕生のしくみを理解している。(知識・理解)

自分の体が妊娠の可能性をもったことを理解している。(知識・理解)

体が大人になることでどのように行動すればよいかを考えている。(思考・判断)

結果と考察

1 手立て1の検証

科学的な資料の提示をすることで、思春期の体の変化や生命誕生のしくみを科学的にの性の認識が高まるであろう。

目に見えない、内性器や性機能の成熟の様子、生命誕生のしくみを男女生殖器図やVTR等の視聴覚教材、胎児モデルなどのモデル教具を活用することで科学的に理解させることができ、自己の性に対する考えを認識させ、性への価値観を高めていくことができるのではないかと考えた。このことについて第1時「思春期の体の変化を知ろう」第2時「生命誕生のしくみを知ろう」のワークシートから検証する。

【結果1】「思春期のからだの変化を知ろう」より生徒の感想

「月経」は自分の体のことだったので、知っていたけれど、「射精」は異性の体だったので今日、勉強してとてもよかったです。これからは自分の体や異性の体のしくみをちゃんと理解して大切にしたい。

「月経」や「射精」という名前を知っていても仕組みはあまり知らなかったのが学習してよかった。射精、月経には個人差があるので記しなくてもいいと思った。

女の体も男の体もわからないことが多かったのがよかった。体が成長していくことも悪いほうに思わないで、あたりまえだと思える女子にはからかたりなげようからあげよう。

【考察】

学習が「思春期の体の変化」ということで、生徒の感想からは、月経や射精のしくみがわかったこと、また個人差があることを知り、安心したなどの感想が見られた。最初の授業ということで、みんな恥ずかしがり、なかなか意見が出なかったが、掲示資料やクイズ、大人と中学生の子宮の比較、月経の量などを具体的に資料で提示し、日常生活に関連づけていくことで、発言も増え、自分の体のこととして考え、真剣な学びに変わっていった。

図7 生徒の感想

【結果2】「生命誕生のしくみを知ろう」より生徒の感想

何のために体が変わっていくのかという意味がわかった。

自分の体は今、妊娠できる状態、命を創ることができる状態であることがわかった。

自分の体や異性の体を知ることは決していやらしいことではなく、自分や異性の体のしくみを知ることで「互いの体を大切にすること」につながると言うことが勉強になった。

精子は3億もあるのに受精できるのは1個だけ

だということや、子宮の中の赤ちゃんは、6カ月になるとほとんどの器官ができあがっている等、大人になるために知っておかなければいけないことをたくさん学んだ。

精子と卵子が受精して大きくなっていくことが、ビデオや人形を使ってわかりやすかった。



写真1 モデル教具の活用

一つが受精するために3億の精子が死ぬのは大変だと思った。でも、3億の精子が協力していくのも初めて知った。だから、性交とかはきちんと考えないといけないと思った。

【考察】

VTR や胎児モデル，掲示資料の活用により「人間の体ってすごい」という驚き，発見と同時に，今まで“なぜ”と思っていた体の変化が“なるほど”に変わってきている。自他の体のしくみや変化の意味を理解することで，妊娠できる体になってきた自己の性への認識が深まり，「互いの体を大切にすること」「きちんと考えて性交はしないとけない」等，これからの生活の中で適切な意思決定と行動の選択が必要であることを理解してきたと考える。

2 手立て2の検証

生徒が主体的に話し合う学習方法を工夫することにより，考えを深め，性の問題を自分のこととして捉え，行動選択につなげていけるであろう。

生徒が知識として学んだことを，日常の生活の中に生かし，自分の問題として考えさせる方法として，ブレインストーミングやグループワークを取り入れた。生徒が一番気になるであろう「異性の心」を知るために，互いの「良いところ」「直してほしいところ」をブレインストーミングした結果を生徒の感想から検証する。

【結果】ブレインストーミング後の生徒の感想

ちゃんと意見が言えた。みんなの意見も聞けた。恥ずかしがっている人もいたがみんな自分の気持ちをしっかり発表していた。みんないろいろ考えていることがわかった。

異性の良い点も悪い点もちゃんと見ているからこそたくさん見つけられたし，充実した話し合いができて満足だ。異性と上手に関わるのは「お互いを知ることだ」と思った。

異性との関わりでは相手のことを考え，自分の意見もしっかり言えるようにしたい。

お互いに思いやりをもって「女だから」「男だから」を少しずつなくしていきたい。

【考察】

日頃から興味があった「異性の心」だけにほとんどの生徒が，活発に意見を述べ，お互いの良いところを発表するたびに「へえー」という声があがり，楽しそうに取り組んでいた。お互いに意見を交わすことで，自分の知らないことやお互いの良さに気づき，「相手のことも考え，自分の意見もしっかり言う」「思いやりをもった行動が必要だ」等，自分の考えを深められたのではないかと考える。話し合いを通して互いを尊重し，行動しようとする様子が見られた。

3 手立て3の検証

ワークシートを作成，活用することにより，生徒の授業への理解や意識の変容の確認ができ，次時の授業展開や関連教科につなげていけるであろう。

【結果】ワークシートから生徒の感想

性の学習は，最初「恥ずかしい」と思っていたけど勉強するうちに，これは「大切なこと」だということがわかってきた。自分の体のことなのにわからないことがたくさんあってそれが，わかるようになったらとてもうれしかった。

私たちは，正しい知識を知ることによって自分の身を守ることができるということがわかった。

前まで異性のことなど「別に」と思っていたが，いろんな意見を聞いたり，勉強したりすることで考えが変わった。正しい知識がたくさん身についた。

アンケートやグループで話し合ったことで、異性の心やいろんなことがわかった。1組だけではなくもっといろんな学級、学年で教えてほしい。

【考察】

ワークシートの活用により、生徒たちの毎時間の授業中での意識の変容、理解の程度、性教育へのニーズを確認し、次時の授業に生かせることができた。ワークシートを毎回書くことで自分の考えを表現できるようになったこと、自分の考えを深め「恥ずかしいこと」から「大切なこと」へと変わっていく様子が見られた。授業後のアンケート結果からも、

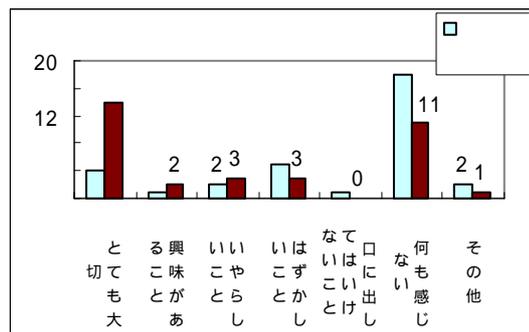


図6 「性という言葉」のイメージ

図6「性という言葉のイメージ」については、「いやらしい」「恥ずかしい」という「性」のプライベートな部分への指導の難しさへの課題を残しつつも、授業前「とても大切」と答えていたのが4人だったのに比べ、授業後は14人に増加している。このようなことから「性についてもっと勉強したい」「男女交際について知りたい」「他の学級にも教えてほしい」「こんな勉強の仕方もいい」という生徒の声は、学校の教育活動全体における性の学びの中に生かしていきたいと考える。

成果と課題

1 研究の成果

- (1) 体の変化や生命誕生のしくみを視聴覚教材やモデル教具等の科学的資料を作成・活用したことにより、生徒が自他の体の変化についてより理解を深めることができ、性の価値観が高められた。
- (2) グループワークやブレインストーミングを取り入れることで、身近な性の問題や情報を共有し、自分の考えを深めることができ、性への認識が高まった。
- (3) ワークシートの活用により、生徒の理解の程度や性教育へのニーズを確認することができた。さらに、本単元の授業を実施する際には、学級担任や教科担任との連携を図ったことで、関連教科や発展指導につなげ、より深い性の学習が展開できた。

2 今後の課題

- (1) 性教育については、中学の3カ年を見通した系統的、組織的、継続的な指導計画と学習の工夫が必要である。
- (2) 生徒の性意識や性行動等は、家庭や地域社会の影響が大きいことから、家庭、地域への啓発活動の工夫や関係機関との連携を図って指導していく必要がある。
- (3) 性の学習においては、養護教諭としての専門性を生かし、学級担任や教科担任とのTTや教材及び資料の提供等、様々な形で授業に積極的に関わっていく必要がある。

《主な参考文献》

- | | | |
|----------------------|-------------|-----------|
| 「学校における性教育の考え方、進め方」 | 文部省 | 1999 |
| 「実践力を育てる中学校保健学習のプラン」 | 財団法人日本学校保健会 | 2001 |
| 「養護教諭がおこなう保健学習」 | 監修三木とみ子 | 東山書房 2003 |